

科目区分	研究科目		
授業科目名	情報制御学・実験治療学		
担当者名	齋藤 康太	配当年次	2, 3年次
単位数	15単位(選択)	実施場所	研究室
授業形態	講義, 実験実習		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
授業の概要・到達目標 授業の目的:細胞内膜輸送システムの破綻による疾患について理解するため, 培養細胞を中心としてコラーゲンやキロミクロン等の分泌機構の解明とその破綻により惹起される繊維化疾患等について研究する。 授業の到達目標: 学術論文の作成に必要な実験データの取得と学術論文の公表を目標とする。 授業の概要: 1. オムニバス方式での講義及び文献抄読を通じて最新の知見を学び, 研究を開始するにあたっての作業仮説の立て方や実証方法を指導する。 2. 培養細胞を用いて, 実際の実験手技を習得させるとともに, 得られた実験データの解析などについて指導する。同時にこれらを学術論文にまとめる方法について指導する。			
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等) 齋藤 康太, ksaito@med.akita-u.ac.jp			
その他特記事項 履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。 教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。 自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。			

科目区分	研究科目		
授業科目名	薬物動態学		
担当者名	三浦 昌朋	配当年次	2, 3年次
単位数	15単位(選択)	実施場所	研究室
授業形態	講義, 実験実習		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
授業の概要・到達目標 授業の目的: 研究を進めるうえで必要となる, 実験や学会等での発表, 論文作成にかかる技術的知識や技能について学ぶことを目的とする 授業の到達目標: 作成した論文を学術論文誌に公表後, 学位審査を経て, 学位取得を目標とする 授業の概要: 薬物動態学と薬理遺伝学について理解するために, 薬物の体内動態に重要な酵素や薬物輸送トランスポーターについてのポイントを講義する。 本科目においては, 1. 講義を通じて最新の知見を学び, 個別化療法のエビデンス構築のための研究を行うにあたっての考え方について指導する。 2. 実際にPCR-RFLP法を用いての遺伝子多型解析を行い, 手技を習得させるとともに, 得られた解析結果を基に, どのように薬物投与量を変更すべきか指導する。			
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等) 三浦 昌朋, m-miura@hos.akita-u.ac.jp			
その他特記事項 履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。 教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。 自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。			